

第1回 現場に寄り添うことから始まるケア in 京都 ～妊娠・出産・産後の一貫支援を考える～

リレー講座2009

講師プロフィール一覧



妊産期経験者

なかす ゆか

1978年生まれ。兵庫県出身。
大学時代を京都で過ごす。大学卒業後、老人保健施設の介護士、支援相談員として勤務。
2003年、大学時代の同級生と結婚。主婦業と仕事に明け暮れる。妊娠と同時に専業主婦となり、2007年に第一子となる長男を出産。妊娠、出産、そして子育てが、自分自身の人生において、想像もできないくらい心の変化をもたらす。育児書は参考になっても、それにあてはまらないことの方が多くて、10人いれば10通りの子育てストーリーがあり、同じ人は一人もいない、ということをもって体験する。
現在は、息子の成長を見守りながら、喜び、悩み、時には落ち込んだりしながら、母としてはもちろんのこと、一人の女性としてどうありたいか、試行錯誤の日々を過ごしている。



心療内科医・婦人科医
嵯峨嵐山・田中クリニック院長
田中 啓一

京都市の周辺部には樹木、田畑、寺社が残されています。渡月橋の上流の桂川の左岸の地区もまたそういった地域です。
私の好きな風景です。その一隅に住居があり、また仕事場である診療所があります。
医師として学び続けた産婦人科と精神科の両方を毎日おこなっています。日本の医師は平均して2つの診療科目をこなすと言われていまして、私も平均的な医師のひとりなのでしよう。
産婦人科と精神科との間に、どんな関係があるの?とよく尋ねられます。確かに外からは見えにくい関係なのでしよう。
講演の中でこの点にふれたいと思います。



100年先へとつながる取り組みを
模索する行動派産科医
東峯ヒューマンズドケアセンター代表
竹内 正人

産科医。1987年、日本医科大学卒業。葛飾赤十字産院(東京:1994年～2005年)では産科部長として周産期医療に力を注ぐとともに、「出産のヒューマンゼーション」を提唱。JICA(国際協力機構)母子保健専門家として、ベトナム、アルメニア、ニカラグア、パレスチナなど途上国の母子医療、思春期リプロダクティブヘルスにもかかわってきた。
生から死まで、ホリスティックに人にかかわりたいと、櫻川介護老人保健施設・施設長を経て、2006年、東峯ヒューマンズドケアセンター(東京・江東区)を開設。産科医としては、東峯婦人クリニック、エナレディースクリニック(北海道・石狩市)に勤務。東京都立東部療育センターでは重症心身障害児(者)の医療にも携わっている。
書籍、講演、メディアを通して、医療の枠をこえて積極的に発信を続けながら、100年先へとつながる取り組みについて模索している。「赤ちゃんの死を前にして」他、著書・監修書多数。



©木尾士目 / 講談社

漫画家
木尾 士目

1974年生・漫画家であり仕事の傍ら育児に奮闘する一児の父でもある。
1994年に、「アフタヌーン四季賞夏のコンテスト」にて、『点の領域』で四季賞を受賞してデビュー。以後、講談社・月刊アフタヌーン誌上にて『陽炎日記』『陽炎日記2』の読み切り(ここまでの3作は単行本『陽炎日記』に収録)掲載を経て、1997年から「四年生」(全1巻)『五年生』(全5巻)を連載。2002年から2006年にかけて『げんしけん』(全9巻)を描き上げた。2006年からは『げんしけん』の劇中作『くじびき♥アンバランス』を独立連載させ原作を担当(画・小梅けいと)。『げんしけん』『くじびき♥アンバランス』はTVアニメ化もされ、シリーズ累計300万部の大ヒット作となった。現在、同誌上に乳児育児を描いた『ちごぶり』を連載中。単行本は第1巻が発売されている(上記単行本はすべて講談社刊)。



山田整体院院長
NPO法人日本マタニティ整体協会代表理事
山田 守寿

妊娠期における体の変化は日々変わるものであり、自覚症状が無くても体に緊張が起こっていることを妻を通して実感する。
そこで出産までの間、妻の体に整体を施すことにより痛みが出現することもなくマイナートラブルを起こすこともなく出産。
その体験をもとにマタニティ全体の重要性を思い知らされ自身の整体院でマタニティ整体をメニューに組み入れ多くの妊婦さんからの体験談を頂く。日本全国にも同じ悩み同じ痛みを我慢されている方々を少しでも改善・安心させてあげたいと感じ、セラピストの育成の為
「NPO 法人日本マタニティ整体協会」を設立し現在に至る。



次女4歳の画

小児科医
坂田小児科医院院長
坂田 耕一

1986年:京都市立医科大学卒業
1986年～1987年:京都市立医科大学小児科研修医
1987年～1989年:松下記念病院小児科勤務
1989年～1993年:京都市立医科大学大学院
1993年～1994年:
京都市立医科大学小児疾患研究施設内科部門助教
1994年～1996年:
大阪労働衛生第一病院小児科医長
1996年～2000年:
京都市立医科大学小児疾患研究施設内科部門助教
2000年～2004年:
京都市立医科大学小児疾患研究施設内科部門学内講師
2004年～:坂田医院開設
大学の特殊外来、開業医の一般外来、2つの立場から見た母親像を通じて感じ、経験したことをお伝えできればと思います。



家族心理臨床家
仕事場D・A・N 主宰
立命館大学大学院教授 / 漫画家
家族療法訓練トレーナー
団 士郎

カップルが子育てをしていく上で、両親・夫婦として、知っておいた方が良いことがいくつかあります。それは具体的育児法ではなく、家族を営むとはどういうことかという理解です。私は長年、家族システム論の視点から、家族問題の解決や予防に取り組んできました。
参加者には医療従事者の比率が高いと思いますが、システム論は自然科学の因果論とは少し異なった物事の見方をします。私はこれが子育て相談、母子保健、障害者現場、高齢者対応、学校教育、離婚などのカップル問題など様々な場面に有効だと考え、多くの現任者に伝えてきました。ここでは妊産婦のいる場所に関わる職種の人たちのために、現場に馴染む家族理解の考え方を提示したいと思います。

お問い合わせは

有限会社 キュアリックケア(キュリカ)

Eメール: info@culica.net 携帯 URL http://culica.net/m/

ホームページ http://culica.net